

新田神社社報

令和3年1月1日発行
新田神社社務所
大田区矢口1-21-23
電話 03-3758-1397
<http://nittajinja.org/>



迎春

『心を一つに、
そしてポジティブに。』

新田神社宮司 品川宗久

あけまして、おめでとうございます。

さて近年多い台風や地震、火山の噴火などの自然現象は、科学や人間によつて制御することができない、まさに人智を超えた存在です。古来より神社は、こうした災害やその時代に流行する疫病などを「災禍・災厄」として祓い、鎮静を祈願し、不安を抱える人々の気持ちを救い癒してまいりました。このたびのコロナ感染症による国難ともいるべき事態も終息に向かい、一日も早く元の生活に立ち戻ることができますよう、年頭にあたりまずもつて祈り、願いたいと存じます。

また皇室におかせられましてもコロナ感染拡大により、天皇陛下のほとんどの活動も延期・中止となり、「国民と直接触れ合う」という平成流の象徴のお務めが困難の中、昨年緊急事態宣言中の四月十日には『私たち皆が心を一つにして、この感染症を抑え込み、乗り越えていく事を願っています』と私たち国民が結束する大切さを述べられました。

世界各国、政府や地方自治体、医療従事者たちによる奮闘が今なお続いている今日、今や私たち人類が、目に見えないウイルスによって、まるで金縛りにあつてているように、制限された生活様式をしいられるようになつてしましました。一人一人が気を配り、予防していくても、いつ誰が感染してもおかしくない状況の中、感

染者やその家族にまで偏見や誹謗中傷するというとても残念なこともあります。人間はその弱さゆえ、いざ窮地にたつと悪い意味での攻撃性を發揮してしまうこともあるかもしれません。

私たちは今までも災害などで被災された地区や人々もお互い助け合いながら、様々な事を乗り越えてきました。困った時こそのお互い様、今こそ医療従事者はもちろんのこと、コロナ感染者に対しても「和の心や寛容の精神」で接することが大切なのはないかと存じます。

昨年、緊急事態宣言中の二ヶ月は、ほんとに時間が止まつたようでした。このような中、ご家族と過ごす時間が増えたり、自分自身を見直す時間もあつたのではないでしようか。何事も、くよくよしていてもはじまりません。たとえネガティブになつても、そこで自分が何ができるのか、今何をすべきかを見極めて進めば、必ず「光」がさします。そして明治天皇の御製には、次のような歌があります。

『あらし吹く　世にも動くな　人ごころ
いはほに根ざす　松のごとくに』

(巖・・・大きな岩や石)

この歌のように、世の中どんな災難や天変地異が起こつても、岸壁にどつしり根をはやした松の大木のように、決して動くことのない「自己の心や信念や意志」というものをしつかりと持ち続け、慎重に事を構えながら、常に判断を誤らず、何事にも動じないことが大切なことなのです。

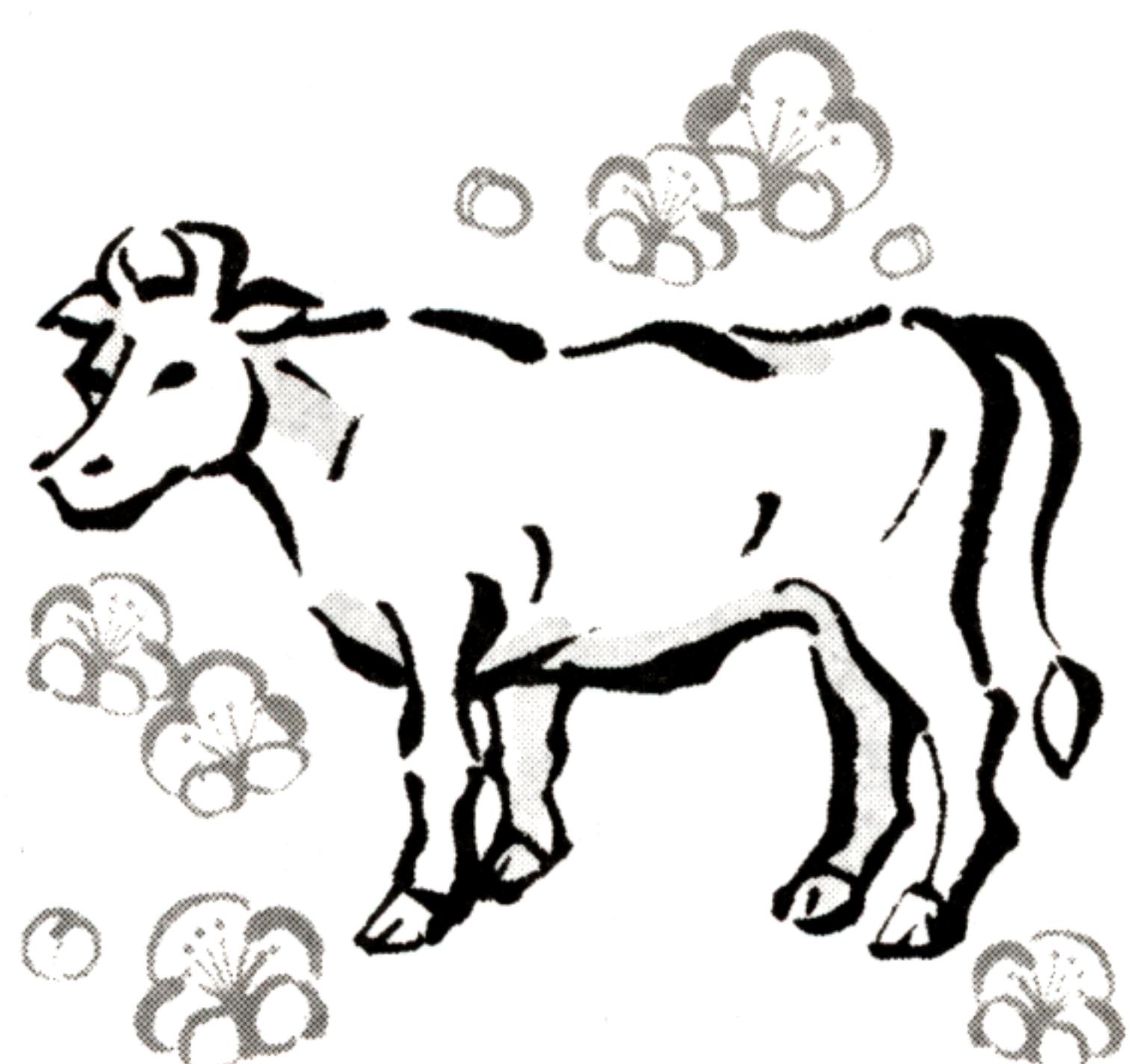
「災い転じて福となす」という諺もあります。皆様方には、御

祭神のご加護のもと、日常の生活の中で、時には発想の転換などをしていただき、常に前向きに、ポジティブな気持ちで心や信念を大切に持ち続ける事で運気も上がり、毎日が明るく楽しい日々となり、益々のご繁栄・ご多幸・ご発展をされますよう心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

※様々な「悪縁」「疫病」「災害」などの災禍を断ち切る

『太刀斬守』

今の世の中、次から次へといろいろな災いがふりかかるうとしています。そんな中、御祭神の靈験「靈劍」で、様々な災害や大事故に遭う事なく、疫病や大病で思うことがないよう、また悪い縁などを断ち切り、良い縁が結ばれますよう祈念いたしました。



『神饌・お供えものについて』

神さまはどこにいらっしゃるのでしょう。神社でしょうか？野山でしょうか？心の中という人もいるかもしれません。実はあなたのすぐ近く、家の中にもいらっしゃるのです。

それは家にある神棚や御神札をおまつりしている場所なのです。私たちは神さまの存在を家族と同じように感じてきました。そして、おまつりを通して神さまの恵みに感謝する心を養うと共に、

優しさや思いやりの心を育んできたのです。その神さまに感謝をする大切な気持ちの表れが、いわゆる「おもてなし」をするといふこと、つまり心のこもった新鮮な美味しいものを召し上がっていただくことなのです。祭りの原点は、神さまに収穫物を美味しく調理して「たてまつる」ことにあり、ここから生まれてきたのが「まつり」という言葉なのです。

その神さまにお供えする食物を「神饌」といいます。この神饌は、日常では、お米・お塩・お水の三品を毎朝お供えするのが望ましく、お正月や毎月一日やご家族にとつてお誕生日などの大切な日には、お酒・野菜・果物や美味しいものなどもお供えするのがよいでしょう。そして、神棚や御神札をおまつりした場所に家族がそろい、ともに手を合わせてお祈りすることによつて、家族の絆がより強くなり、親が子を慈しみ、子が親を慕う、心豊かな家庭となることでしょう。

そして、神棚にお供えしたその「おさがり」をいただくことによつて、神靈を我が身に受けとめご神徳にあやかることができるのです。これを「直会」といいます。

では神社では、どのようなお供え物をしているのでしょうか？毎朝、お日供（につく）、日供祭といつて、各ご家庭と同じよう

に、お米・お塩・お水の三品は必ずお供えし、皇室の弥栄や日本^の國の安泰や世界平和、世の中のすべての人々の幸せを祈ります。そして、毎月一日やいろいろな大小の祭典、祭礼の時には、その他に、お酒、餅、魚、鳥（卵を代用することもあります）、海草や乾物、野菜、果物、和菓子など、その季節の旬の美味しいものを適宜御神前にお供えします。尚現在、ほとんどの神社では「生」の新鮮なものをお供えしますが、神社や祭りによつては、調理したものをお供えする事もあります。

また、お祝いごとなどで用いる祝儀袋・熨斗袋に「のし」が付けられているものが多いのですが、この「熨斗」の意味はご存知でしょうか？熨斗の起源は、昔、贈り物をするさいには、相手の長寿をも祈り、大変貴重なアワビを干して伸ばしたもの添えて、一緒に贈つたことが風習として定着したのです。それゆえ、祝儀袋・熨斗袋に「熨斗」の絵が描かれたり、「熨斗」の飾り物が付けられているのです。

また伊勢の神宮では、この「熨斗アワビ」を古代から現在に至るまで神饌として変わることなく御神前にお供えしています。ちなみに神社に金銭を納めるさいに、その熨斗袋に「初穂料」と記すことが多いと思いますが、これはその年初めてとれた稻・新米の代わりに金銭を神さまにお供えしますという意味なのです。また「玉串料」は、お参りの際、榦の枝に紙垂（しで）と麻を結び付けた玉串のかわりにと
いう意味があります。



「熨斗アワビ」を表している

幸福祈願

『初夢宝船』

その年の運気を上げるために、正月三ヶ日の間に『宝船』の絵を枕の下に敷いて寝て、「縁起のいい夢、良い夢」を見るという風習が室町時代よりありました。

代表的な良い夢としては「一、富士。二、鷹。三、なすび」があげられます。これは日本一の富士山のように高い理想や志を持ち、大空に羽ばたく鷹のように、それに向かって突き進み、鋭い爪でそれをつかみ、なすびの語呂にあやかり、事をなす、成就させることを願うといいます。

また白蛇の夢を見ると財運が向上する、お金が入ってくるともいわれています。

それはともかくとして、皆様方にとってそれぞれの良い夢をたくさんご覧いただき、この令和三年が良き素晴らしい年でありますようご祈念いたします。

●十一月中旬より正月三ヶ日まで限定授与

初穂料 五百円

幸福祈願



新田神社



個人の祈祷料は、五千円以上お気持ちをお納め下さい。
会社の祈祷料は、壹万円以上お気持ちをお納め下さい。

お問い合わせは（三七五八）一三九七
新田神社社務所 まで

新春祈祷の御案内

幸せと安らぎの日々を
年頭に当たり、皆様方の幸せと無事を祈り、明るい希望に満ちた令和三年となりますようご祈願申し上げます。

【家内安全】 【方位除災】 【厄除招福】^{やくよけ} 【必勝開運】
【縁むすび】 【合格祈願】 【身体健全】 【病氣平癒】^{へいゆ}
【商売繁昌】 【営業繁榮】 【交通安全】 その他

令和3年の厄年 (数え年)			
	前厄	本厄	後厄
男の厄年	24才 平成10年生 満23才 たら	25才 平成9年生 満24才 うし	26才 平成8年生 満25才 ねずみ
	41才 昭和56年生 満40才 とり	42才 昭和55年生 満41才 さる	43才 昭和54年生 満42才 ひつじ
	60才 昭和37年生 満59才 たら	61才 昭和36年生 満60才 うし	62才 昭和35年生 満61才 ねずみ
女の厄年	18才 平成16年生 満17才 さる	19才 平成15年生 満18才 ひつじ	20才 平成14年生 満19才 うま
	32才 平成2年生 満31才 うま	33才 平成元年生 満32才 み(へび)	34才 昭和63年生 満33才 たつ
	36才 昭和61年生 満35才 たら	37才 昭和60年生 満36才 うし	38才 昭和59年生 満37才 ねずみ
	60才 昭和37年生 満59才 たら	61才 昭和36年生 満60才 うし	62才 昭和35年生 満61才 ねずみ

数え年とは、満年齢に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。
厄年の方は、厄除祈禱をお受けになられたり、厄除の御守を身に付けられまして、厄年としての自覚を深め、神様のご加護のもと明るく充実した生活をお送り下さい。